

いざ全国の舞台へ

6月29、30日に開催された「日本スポーツマスターズ2024軟式野球競技東北予選会」に出場したつがる市野球協会が見事3位の成績を収め、4回目の出場にして初の全国大会への切符を手にした。

この日、選手ら6人が市役所を訪れ、大会の結果や今後の抱負について話しました。

チームのエースである山谷正志投手は「この大会が最後でもいいというくらいの気持ちで頑張ってきます」と話しました。

倉光市長は、「全国大会では、つがる市の名を存分に知らしめて暴れてきてください」と激励しました。



健闘を誓うつがる市野球協会の関係者たち

7/17
市役所

市の魅力を伝える 夏の移住体験ツアー開催



7/19
つがる市内

ツアーを終えて笑顔の参加者

7月19日から3日間にわたり、「夏の移住体験ツアー」が市内で行われました。

本ツアーは、関係人口の拡大を目的に市が主催したもので、今年は東京都と神奈川県から4人が参加し、地域の暮らしや文化などを体験しました。

参加者はメロンの収穫体験や市内小学校などの施設を見学し、なかでも好評だったのが先輩移住者との交流会で、参加者は「旅行では体験できない地元の方との交流がたくさん出来て良かった」「地元の先輩方と話す事でリアルなつがる市を体験出来た」と話していました。

「メロンロードパトロール隊」出動

市特産品のメロンやスイカなどを盗難被害から守ろうと、毎年収穫時期に合わせて、つがる警察署や市防犯協会などが「メロンロードパトロール隊」を結成し、盗難防止に努めています。

この日、市役所前で出動式が行われ、市防犯協会会長の倉光市長が「盗難は農家の皆さんの努力が水の泡になり、決して見過ごせません。つがる警察署を筆頭に、関係機関と協力してパトロールを行ってほしい」とあいさつ。

つがる警察署の上原健治署長は「収穫時期が終わるまで、これまで以上に警戒活動を強化し、見慣れない車や人を見掛けたら直ちに警察に通報してもらいたい」と呼び掛けました。



パトロール強化を決意表明する市防犯指導隊 藤本正彦総隊長（右）

7/25
市役所

縄文土器づくりに挑戦

8/3
松の館



真剣な眼差しで土器を作る児童生徒たち

縄文文化や遺跡について理解を深めてもらいたいと、市内の小中学生を対象に縄文土器づくり体験が開催されました。

この日、小中学生20人とその家族らが参加し、講師を務める津軽亀ヶ岡焼の陶芸家一戸広臣さんから説明を受けながら、縄文土器を制作。粘土を平たく円形状に伸ばして土器の底になる部分を作ってから、ひも状に伸ばした粘土を底部分の縁に沿って積み重ねて側面を作り、最後に縄の文様をつけて作品を仕上げました。作った土器は、一戸さんが乾燥させ、窯で焼いて完成します。

参加した森田小6年生の神彩結実さんは「文様をつけるのが難しかったけど、いい体験ができた。完成してくるのが楽しみ」と話しました。

先の大戦から79年目の夏

戦没者追悼・平和祈念式が執り行われ、遺族や関係者約60人が市の戦没者1,325人の御霊を悼み、不戦の誓いを新たにしました。

式典では、倉光市長が「過去の歴史に向き合い、戦争の悲惨さと、平和の尊さ、平和を堅持する知恵を次の世代に継承することが、私たちの責務です」と述べました。

遺族を代表して市遺族会の高橋滋会長は「ウクライナやパレスチナ自治区では依然として戦闘が行われている。一日も早く戦争を終わりにしていただきたい」と追悼の言葉を述べました。

その後、参列者一人一人が祭壇に白菊を献花し、戦禍で尊い命を落とした戦没者に思いを馳せました。

8/8
松の館



白菊を献花する参列者

過去から未来へメッセージ

タイムカプセル掘り起こし

8/14
瑞穂小学校



無事にタイムカプセルを掘り起こした卒業生たち

瑞穂小学校の卒業生たちが8年前に埋めたタイムカプセルの掘り起こしを行いました。

この日、卒業生たちとその家族、当時の担任の先生ら約70人が集まり、当時の思い出を振り返りました。

タイムカプセルは、当時の6年生たちが未来の自分たちに向けて、さまざまな思い出やメッセージを詰め込んで埋めたもので、卒業生たちは慎重に土を掘り起こし、ついにタイムカプセルが姿を現すと周囲から歓声が沸き起こりました。

卒業生で大学2年生の三上広翔さんは「埋めた時の将来の夢が今と変わっていないことに驚いている。医療関係の仕事に進むため、これからも勉強します。このイベントを企画してくれた父母の方々に感謝しない」と話しました。

各地で盛り上がりを見せた夏まつり

三新田まつり

歩行者天国として開放された路上では、至る所でダンスやプロレス、大道芸など多彩なパフォーマンスが披露され、訪れた見物客が足を止めて声援を送っていました。

また、ビアガーデンやキッチンカー、露天商などが軒を連ね、多くの市民らでにぎわいました。

7月20日には、下木造地区のカップ広場周辺で伝統の「灯ろう流し」を開催。それぞれの願いが込められた灯籠が次々と古田川に放され、参加者はゆっくりと下っていく明かりを静かに見守っていました。

7/22・23
有楽町・千代町
商店街ほか



熱い視線を集めるジャグリングショー

7/28
むらおこし拠点館
フラット



網いっぱい野菜をすくう参加者

車力まつり

昨年までおよそ20年継続された「フラットまつり」が「車力まつり」へリニューアルされ、この日、フラット敷地内で開催されました。

ビンゴゲームや歌謡ショー、「AOMORI花嵐桜組」による演舞で会場は多くの市民らでにぎわいを見せたほか、新たなイベント「100kg野菜すくい」では、順番を待つ長蛇の列ができるほどで、参加者たちは網からあふれるほどたくさんの野菜をすくっていました。

メロンスイカフェスティバル

メロンは1箱5玉入り4千円、スイカは1玉3Lサイズ2,600円、2Lサイズ2,400円と今年も店頭価格より安い本市産メロン、スイカを目当てに早朝から長蛇の列ができました。

ステージでは、スイカ早食い競争やスイカ種飛ばしなどが行われ、白熱した展開に会場は盛り上がりを見せていました。

出店コーナーでは、「農家の刺客」のジェラートやメロンスイカを使ったスイーツのほか、キッチンカーも集合し、来場者は足を止めて買い物を楽しみました。

8/3
つがる地球村



優勝を目指してスイカにかぶりつく子どもたち

8/17
イオンモール
つがる柏



やぐらを囲み輪になって踊りを楽しむ参加者

盆踊り大会

市内外から揃いの衣装や仮装した団体をはじめ、家族連れなど約1,600人が参加。特設のやぐらを囲み二重三重の輪になって約2時間、「つがる市民音頭」や「かしわ音頭」の歌に合わせて心ゆくまで踊りを楽しんでいました。

大会の最後には大輪の花火が打ち上げられ、訪れた人たちは、過ぎ行く夏の贅沢な時間を満喫していました。